

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 6年次生 山下 力也

1. はじめに

このたび、国際交流基金助成金の援助を受け、台湾 (Taoyuan) の Chang Gung University Campus において開催された、The 7th Asian Particle Technology Symposium (APT 2017, 30 July-3 August)へ参加し、自身の研究成果を発表したので、これを報告する。



写真1. 会場にて

2. 学会について

APT symposium は 2000 年のバンコクを皮切りに開催されており、世界中の粉体工学研究者が知見広げるとともに議論する場を提供している。今回の APT2017 では、Advanced Particle Technologies for Traditional and Emerging Industries をテーマに、粉体工学における最新の技術に関し共有・議論することで、この分野のさらなる発展が期待された。



写真2. 宿泊施設

3. 学会の様子

3.1 発表内容

発表の場は、口頭発表とポスター発表に分かれており、私は大会 2 日目に、Biological, Biomedical and Pharmaceutical Application のセッションにおいて、口頭発表を行った。英語でのプレゼンテーションということで、緊張し不安であったが、自身の発表に興味を持っていただくことができ、質問をいくつかいただいた。しかし、自身の英語能力の不足により、求められたことに的確に答えることができなかった。座長の親切な助けもあり発表は終了したが、英語ができないことを痛感した。



写真3. ポスター会場の様子



写真4. 口頭発表会場

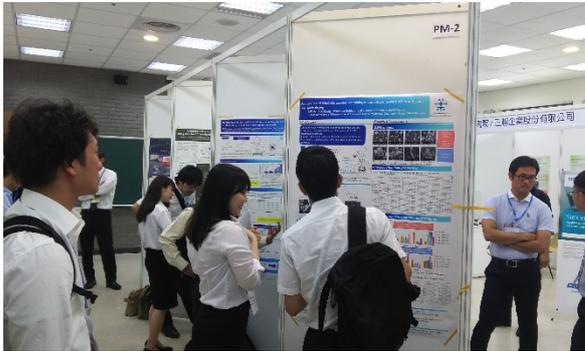


写真 5 口頭発表の様子

また、APT symposium は粉体工学分野の学会であるため、他の方々の発表の中で理解できないことが多かったが、同世代の研究者や大学院生などの発表を拝聴することで、自身の研究活動や、英語学習についてのモチベーションにつながった。

1.2 その他

大会初日に宿泊施設において、レセプションパーティーが行われた。立食形式で、台湾料理やお酒が振る舞われ、学会参加者と交流した。日本人も多かったが、マレーシアやインドの方々とも交流でき、楽しく過ごすことができた。また学会を通して、台湾の長庚大学の学生と仲良くなることができ、台湾での学生生活や文化について知ることができた。英語で会話することに関して、流暢でなくても、簡単に言い換えたり、ジェスチャーしたりすることで言いたいことを伝えられることが実感できた。しかし、同じアジアの国でも中国や台湾の方々に比べると英語ができないのは歴然であることがわかり、英語学習のモチベーションが高まった。

4. 台湾について

台湾は一時期日本の植民地であったこともあり、意外なところで日本語が少し通じる場面もあり、気さくな人が多い印象だった。日本人観光客も多く見受けられた。また台湾は夜市で有名であり、魯肉飯や臭豆腐などの台湾フードを安く楽しむことができた。



写真6 台湾の街並み



写真7 夜市の様子

5. おわりに

今回、国際交流基金助成事業の助成金により、APT2017に参加させていただくことで、自身の研究に関する知識を深めるとともに、国際学会で発表するという貴重な経験を得ることができた。最後に、このような貴重な機会を与えて下さった、戸塚裕一教授およびご支援いただいた多くの方々に、心からの感謝を表し、報告とさせていただきます。